

令和6年度 徳島市加茂名中学校総括評価表

学校教育目標：たくましくしなやかに、明るい未来を創造することができる、知・徳・体の調和がとれた生徒の育成					
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な活動計画 及び 評価指標	自己評価		学校関係者評価	次年度への 課題と改善策
		達成状況と実施状況	評価	意見	
1【学校経営】					
①笑顔があふれ、温かい言葉が交わされる学校づくりをめざす。 ①生徒会活動の活性化やKCLGの取組の更なる充実をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性を尊重し、積極的に声かけ（賞賛、感謝、激励等）を行う。 ポジティブな行動支援（PBS）を意識して、望ましい行動を褒める。 【評価指標】 ・「学校生活が楽しいと感じる」生徒：90%以上 ・「子どもは学校へ行くことを楽しみにしている保護者：90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 76%の生徒が、学校へ来ることが楽しいと回答した。 81%の保護者が、子どもは学校へ行くことを楽しみにしていると回答した。 多くの教職員が生徒に対する声かけ（あいさつ、言葉遣い等も含めて）を日々実践している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭との連携はとれているように感じる。 働き方改革を進めていくとともに、働きたいのある職場づくりに努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会（登下校時、休み時間、清掃時等）を捉えて全教職員があいさつや声かけを引き続き実践していきたい。
②全ての教育活動の充実を図りながら、家庭や地域に信頼される学校づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 担任等による家庭連絡をはじめ、各種便りやメール、ホームページ等を有効に活用し、情報交換、情報発信に努める。 【評価指標】 ・「学校は積極的に情報発信に努めていると感じる」保護者：80%以上 ・「学校は子どもの様子等について、家庭との連携がとれていると感じる」保護者：80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 82%の保護者が、学校は積極的に情報発信に努めていると回答した。 86%の保護者が、学校と家庭の連携がとれていると回答した。 91%の保護者が学校での学習状況や行事の開催などPTCや学年日よりなどで知ることができていると回答した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 保護者から学校に相談しやすい環境づくりをさらに努める。 ホームページ等を活用して、学校行事などの情報発信を積極的に行う。 引き続き、担任等による家庭連絡を密にしながら情報交換、情報共有に努めていきたい。
③教職員としての誇りと自覚を持って教育活動に取り組むことができる、働きやすく働きたいのある職場環境を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 業務の適正化と質的転換による働き方改革を推進する。 風通しのよい職場づくりと教職員間の協力体制の整備に努める。 【評価指標】 ・「働きやすく働きたいがある職場であると感じる」教職員：90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 90%の教職員が、働きやすく働きたいがある職場であると感じると回答した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の働きやすく働きたいのある職場をめざした組織づくり、校務分掌などを行う。 効率的で適正な部活指導の充実を図る。
2【学習指導】					
①ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境や授業づくりに努める。 ①生徒の実態を考慮しながら、書く活動や話し合う活動充実させ、魅力のある授業づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れの提示を徹底する。 授業研究会や授業研修ウィークを通しての授業力の向上を図る。 【評価指標】 ・「授業に集中して一生懸命取り組んでいる」生徒：80%以上 ・「先生はわかりやすい授業を行っている」生徒：80%以上 ・「授業がわかりやすいと子どもが言っている」保護者：70%以上 ・「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる」教職員：80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 78%の生徒が授業に集中していると回答しており、評価指数を2%下回る結果となった。 82%の生徒がわかりやすい授業であると回答しており、評価指数を上回った。一方で「授業が分かりやすいと子供が言っている」という項目に対する保護者の回答は58%であり、生徒と保護者の認識の差が見られる。 70%の教員が生徒は授業に意欲的に取り組んでいると回答しており、評価指標には届いていないものの前年度よりも10%上昇している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ノーメディアデーのような、小中の連携を多方面で進めていくことは、様々な面で効果的ではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 約8割の生徒が先生がわかりやすい授業を行っていると答えており、教職員の授業の工夫が垣間見えるが、指標を上回ることができるよう引き続き、工夫改善して授業実践をしていきたい。 授業研修ウィークでの授業参観の実施がブロック人権と重なったこともあり、参観のための時間の確保が難しかった。実施の時期や方法を検討しながら続けていきたい。
②家庭で学習に使える	<ul style="list-style-type: none"> ノーメディアデーを継続的に実施し、家庭で学 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日家庭学習ができていると 			<ul style="list-style-type: none"> 今年度、家庭学習強化週

<p>る時間を増やすことをめざす。</p> <p>②テスト前の家庭学習の時間を充実させる。</p>	<p>習に使える時間を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト前に目標シートを配布し、見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「毎日家庭学習ができています」生徒：80%以上 ・「家庭学習の習慣がついている」保護者：80%以上 	<p>答えた生徒が56%、家庭学習の習慣がついていると答えた保護者が46%となり、ともに評価指数を下回った。</p>	<p>B</p>		<p>間の取組を始めたが、家庭学習の習慣の定着には時間が必要である。また、学力向上のためには、学校全体で今後さらに細やかな指導を行っていかなければならない。</p>
<p>3 【人権教育】</p>					
<p>①「人間の尊さ」を基盤に据え、全教育活動を通して人権教育の推進に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の充実を図り、外部講師の招へいや学年毎の教材研究等を推進する。 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育への理解が深まったと感じる」教職員：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・93%の教職員が人権教育への理解が深まったと回答しており、昨年度より1.8%減少した。今年度は研究大会の会場校として、教材研究や外部講師の招へいを充実させることができた。(昨年度94.8%) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会では多方面から講師を招聘し、生徒が幅広い知識を得る良い機会であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人権課題に関して、最新の知識や考え方を学び、日々の教育活動に活かすため講師を招きたい。また、地域のことをよく知り、生徒の家庭的背景も理解したうえで人権教育をすすめていきたい。
<p>②認め合える仲間づくりを通して、自尊感情を高める。</p> <p>②いじめや差別を許さない強い意志と実践力を備えた生徒の育成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動や学校行事等、級友と力を合わせる機会を積極的に設定する。 ・生徒の言動や表情の変化に留意し、いじめ問題等の早期発見・早期対応に務める。 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は一人一人を大切にされた教育（指導）をしていると感じる」生徒：80%以上 ・「自分や周りの人の人権を大切にできている」生徒：80%以上 ・「学校は人権を大切にされた教育を実践できている」保護者：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・85%の生徒が、先生は一人一人を大切にされた教育をしていると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度86.8%) ・93%の生徒が、自分や周りの人の人権を大切にできていると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度90.3%) ・87%の保護者が、学校は人権を大切にされた教育を実践していると回答しており、評価指標を上回った。(昨年度81.3%) 	<p>A</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、評価指標を上回ってはいるが、昨年度より下回る項目もみられた。次年度は、今年度を上回る結果となるよう教育活動を充実させたい。 ・教職員は今年度以上に生徒一人一人を大切にされた言葉かけや態度に留意し、人権感覚を磨いていく必要がある。そのために、校内研修を充実させて人権を大切にすることを教職員間で共有していきたい。
<p>4 【道徳教育】</p>					
<p>①自分の内面を見つめ、人間としてよく生きようとする態度を育てる。</p> <p>①命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する心を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握に努め、実態に合わせた価値項目の授業を計画的に実践する。 ・教科書の活用とともに、生徒の心に響く教材等を探索する。 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の授業が大切だと感じている」生徒：80%以上 ・「生徒に道徳性（モラル）の向上を意識した指導（声かけ）を心がけている」教職員：90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の86%が、道徳の授業が大切だと思うと回答したが、昨年度の87.6%を上回ることができなかった。 ・92%の教職員が、生徒に道徳性の向上を意識した指導を心がけていると回答し、昨年度の92.1%を上回ることができなかった。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に授業改善、実践を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や授業研究、研究会への参加などに努め、生徒の心に響く道徳の授業を実践する。これまでの取組に加え、より継続的に改善に努める。
<p>5 【特別支援教育】</p>					
<p>①ユニバーサルデザインの視点に立った教室内の環境や授業づくりに努め、わかりやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間及び生徒や保護者との情報交換を通して、より学習が深まるよう配慮する。 <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の特性を理解した指導（声かけ）の工夫ができています」教職員：90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性を理解した指導（声かけ）の工夫ができていますと回答した教職員は97%で、昨年度の94.8%を上回ることができた。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が「わかる・できる」を体験できる授業を展開するために、家庭との連携を密にし、UDを意識した授業構成、

授業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ユニバーサルデザインの視点に立った授業を心がけている」教職員：90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> UDの視点に立った授業を心がけていると回答した教職員は85%で、目標の数値を達成することができなかった。 			<ul style="list-style-type: none"> 教室環境づくりを進め、居心地が良く安心して学習できる学校を目指したい。
②特別支援教育に関する学びの場に積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 研修した内容や参考になる取組等を、速やかに教職員に伝達し、実践に生かす。 【評価指標】 「特別支援教育への理解が深まったと感じる」教職員：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 96%の教職員が特別支援教育への理解が深まったと感じていると回答し、目標の数値を達成することができた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業日中の研修資料や動画の視聴や資料の配付により、研修とさせていただいた。今後も、日常的に活用できる情報を収集し、職員間で共有を続けたい。
6 キャリア教育					
①社会における自らの役割や将来の生き方について考え、進路選択のための準備をすすめる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の充実を図るとともに、各教科等との連携した教育活動を展開して、学ぶことと自己の将来とを関連付けた指導を行う。 【評価指標】 「自分の進路選択のために情報収集ができている」生徒：65%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の進路選択のために情報収集ができていない」と答えた生徒は55%で、目標の数値を達成することはできなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次だけでなく、1年次から継続的に進路について情報提供を行い、生徒にも将来について考えさせる取り組みを継続させたい。
②人とのつながりを大切に考え、社会の一員としての自覚を持ち、集団生活に進んで参加する生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自他の良さに気づき、学校生活・社会生活に意欲的に取り組む教育活動を展開する。進路選択に向けて、分かりやすい情報の提供と適切な指導助言を行う。 【評価指標】 「将来に対する夢や希望をもつことができていない」生徒：70%以上 「生徒に適切な進路選択ができるような指導(声かけ)を心がけている」教職員：90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「将来に対する夢や希望をもつことができていない」と答えた生徒は66%で、目標の数値にわずかに届かなかった。 「生徒に適切な進路選択ができるような指導を心がけている」と答えた教職員は97%で、目標の数値を達成することができた。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 教職員と生徒の意識に差がある。職場体験が実施されていない中で、生徒に自分の夢や将来について考えたという実感を持たせる機会をもう少し増やす取り組みが必要である。
7 (生徒指導)					
①集団生活のきまりを守る生徒の育成をめざす。 ①将来、社会的に自己実現できるよう、自己指導能力の育成をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 服装違反を繰り返す生徒及びその保護者への働きかけを粘り強く行う。 生徒会活動等で、正しい服装のあり方について考え、呼びかけを行う。 【評価指標】 「正しい服装で学校生活を送っている」生徒：95% 「生徒のルール違反や問題行動等に対して、粘り強く指導した」教職員：95% 	<ul style="list-style-type: none"> 92%の生徒が、ルールを守り正しい服装ができていないと回答している。評価指標に届いていない。 89%の教職員が、粘り強い生徒指導ができたという回答している。評価指標に届いていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導が難しい時代になってきている。 家庭訪問をすすめるなど、家庭も巻き込んだ粘り強い指導が、生徒の力を蓄げてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より教職員の意識は向上しているが、生徒の意識は低下している。次年度は、生徒会を中心に活動を通して、生徒から「ルールを守ろう」「服装を正そう」等の発信ができるようにしたい。 教職員は指導しても結果が伴わないこと戸惑いを感じているように思う。毎回指導のラインを確認しながら、複数で指導に当たれるように体制を整えていきたい。
②温かい言葉を大切にし、正しい言葉遣いが身に付くようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動等で、正しい言葉遣いができるようにするために生徒主体の運動を実施する。 【評価指標】 「正しい言葉遣いができていない」生徒：90%以上 「意識して正しい言葉遣いを生徒に指導した」 	<ul style="list-style-type: none"> 85%の生徒が、正しい言葉遣いができていないと回答している。評価指標に届いていない。 93%の教職員が、正しい言葉遣いを指導したと回答している。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 教職員・生徒両方の意識が合うように、行事や集会等を利用して、「正しい言葉遣いとはなにか」ということも含めて指導していきたい。

	教職員：95%	る。 評価指標に届いていない。			
③日々の実践を通して、生徒との信頼関係を構築するとともに、生活アンケートを活用し、生徒の気持ちの変化にいち早く気付くことに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援委員会で、支援や指導が必要な生徒に関する共通理解を図るとともに、教職員間の情報交換を密に行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「困ったことや悩み事があれば、相談できる先生がいる」生徒：80%以上 「学校は生徒の問題行動に対して適切な指導をしている」保護者：80%以上 「生徒の相談に親身になって対応した」教職員：100% 	<ul style="list-style-type: none"> 66%の生徒が相談できる先生がいると回答している。評価指標に届いていない。 62%の保護者が適切な指導をしていると回答している。評価指標に届いていない。 100%の教職員が親身になって対応したと回答している。評価指標に届いた。 	C		<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートに加え、教職員と生徒・保護者の間に少しズレが生じている。定期的に2者面談や可能な範囲で家庭訪問を実施し、信頼関係を築いていきたい。また、教職員ひとりひとりが自信をもって生徒指導に臨めるように、教職員間の関係を密にしていきたい。
8【保健指導】					
①定期健康診断の二次検診受診率のさらなる向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 検診結果通知やほけんだよりで、受診の必要性を周知する。 PTC時に個々の定期健康診断結果を配付し、受診を促す。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 二次検診受診率（検診結果通知の返却率）保護者：70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートによる健康診断後の二次検診受診率は65.0%と昨年度よりも5.2%減少した。 実際に学校に受診報告が提出されたのは30.2%と昨年度より8.5%減少し、評価指標も達成することができなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の協力が必要だが、難しい家庭も少なくないようだ。継続的な働きかけをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した啓発活動を行うことで、二次検診受診の必要性について、年々意識や理解が高まってきている。 継続して、PTC時の声かけや担任との連携等での啓発活動を行うことで、更なる受診率向上を図っていく。
②生活リズムの改善と生活習慣病の予防に努める。 ②規則正しい生活習慣に改善しようとする意欲の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭と協力をして、肥満度の高い生徒へ個別指導を行う。 アンケート調査を実施し、生活習慣を改善するための取組と指導を行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 自己評価で「私は、健康に過ごすために、生活リズムを整えるなど、心がけることができる」生徒：75%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 77.0%の生徒が、健康に過ごすために生活リズムを整える意識をしていると回答している。昨年度から3.8%増加した。 適切な睡眠時間の確保について保護者アンケートでも、64.0%と昨年度より2.2%増加したが、評価指標には届いていない。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整えるための具体的な方法や工夫について、啓発活動や保健室来室時等で指導をしていく。 引き続き、生活習慣アンケートの実施と規則正しい生活習慣を送るための取組の実施、保健指導等で健康生活を送ろうとする態度や意識の向上につなげていく。
9【生徒会活動】					
①元気なあいさつができる「加茂名中学校生の集団づくり」をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部が中心となって、専門委員会や各部活動と連携して朝のあいさつ運動を実施する。 生徒会新聞であいさつ推進に関する内容を取り上げる。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつができています」生徒：90%以上 「加茂名中生はあいさつができています」保護者：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 83%の生徒があいさつができていると回答とした。昨年度よりも2.3%低下した。 64%の保護者があいさつができていると回答した。昨年度よりも1.1%低下した。双方ともに評価指標に到達しなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が中心となって活動する場が多くてよかった。 専門委員会の活動がより活性化されるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各専門委員会や部活動、生徒会の活動を通して生徒へのあいさつの推進は昨年度よりも活発にできている。 あいさつ運動が校内だけでなく、保護者や地域の方に広まるように活動をさらに発展させていきたい。
②全生徒会専門委員会の各活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会専門委員会で、具体的な目標や実践項目を決め、生徒会執行部の中でもその活動を振り返り、よりよい活動を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 59%の生徒が意欲的に取り組んだと回答した。 			<ul style="list-style-type: none"> 各委員会で活動日・活動内容を決め、月に1回以上は活動を行ってきた。

<p>②各委員会で視野を広げ幅広い活動を行っていき、各委員会ごとに所属している生徒全員が参加できる活動を計画する。</p>	<p>・生徒会新聞やホワイトボードを通して、活動を周知し、月1回以上専門委員会での活動を行う。 【評価指標】 ・「専門委員会の活動に意欲的に取り組んだ」生徒：70%以上</p>		C		<p>・月ごとで活動内容を少しずつ変更したり、校外での活動など、生徒が意欲的に活動できる内容を考え、活動でできるよ毎月、会議の中で各担当教員が全員が参加する活動へ生徒を導く必要がある。</p>
<p>③文化祭で、全学年の生徒が積極的に自己表現活動に取り組み、表現の部に参加できるようにする。</p>	<p>・文化祭への参加を広く呼びかけ、生徒会執行部が中心となってその運営を行う。 ・全生徒で参加しやすいような取り組みを生徒会執行部で企画する。 【評価指標】 ・「文化祭の活動に意欲的に取り組んだ」生徒：75%以上</p>	<p>・73%の生徒が意欲的に取り組んだと回答した。目標に到達には至っていないものの、昨年度より7.8%上昇している。</p>	B		<p>・今年度は全学年で同時に開催し、有志の部にも全学年から参加者を募った。 ・来年度は1年生、2年生からも多くの生徒が積極的に参加できるように取り組みを実行させていきたい。</p>
<p>10【図書館教育】</p>					
<p>①図書室の利用を増やすため、図書委員会活動の活性化し、昨年度よりも利用者数の増加をめざす。</p>	<p>・学年の利用日は朝学活で知らせるなど図書委員が積極的に呼びかける。・・・生徒が図書室を訪れるきっかけとなるようなイベントや活動を、図書委員が中心となって行う。 【評価指標】 ・「学年利用日に図書室を訪れた人数」生徒：30%以上 ・「学級文庫、学年文庫、図書室のすべてを合わせて年間5冊以上読んだことがある」生徒：30%以上</p>	<p>・図書室を利用したと回答した生徒は「そう思う」、「ややそう思う」を合わせると30%であった。図書委員は、図書室の開館や利用の呼びかけ、学級文庫の管理や入れ替え、授業時の辞書の回収、購入した図書を受け入れや配置など活発な活動が行えた。 ・読書数は「そう思う」が30%、「ややそう思う」を合わせると47%が目標を達成した。</p>	C	<p>・SNSの普及により本を読まなくなっている。図書室を積極的に活用してほしい。</p>	<p>・図書委員がたいへん意欲的に活動したので、次年度の活動に引き継ぎたい。 ・国語辞典8種類を数冊ずつ、各学年に1クラス人数分配し、授業中1人1冊持てるようにした。辞書ごとに内容が違いため、比べることで理解が深まり語句への興味も増した。できれば次年度は漢和辞典を購入したい。</p>
<p>11【食育】</p>					
<p>①基本的な生活習慣の定着をめざす。</p>	<p>・おたよりや掲示物を作成する。 ・授業や給食の時間を通して食に関する指導を行う。 【評価指標】 ・「毎日、朝・昼・晩の食事を食べている」生徒：80%以上</p>	<p>・おたよりや掲示物を作成し、職員室前の掲示板に掲示することができた。 ・食育の授業を全クラス実施することができた。 ・「毎日、朝・昼・晩の食事を食べている」に対して「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒は合わせて86%であり、目標の80%を達成できた。</p>	A	<p>・朝食を食べる生徒がほらほとんどであることは生活習慣が身につくことではないか。 ・最近食育の指導も難しくなってきた。好き嫌いなくしてほしいものや食の無理解や食の食べさせられること問題とされる。アレルギー</p>	<p>・1日3食きちんと食べることができている生徒が多いことがアンケートから分かった。来年度以降は間食のとりかたも含め、理想的な食事の内容についてさらに知識を深めることができる取り組みを考えていきたい。</p>
<p>②自分に必要な栄養や食事の量がわかる生徒を育てる。</p>	<p>・給食委員会で残食調査やポスターの作成を行う。 ・授業や給食の時間を通して食に関する指導を行う。 【評価指標】 ・「給食を好き嫌いをせず、残さず食べている」生徒：75%以上</p>	<p>・給食委員会で残食調査を実施できた。実施期間中はその前月の平均残食総量に比べて10kg程度残食が少なくなった。 ・「給食を好き嫌いをせず、残さず食べている」に対し「そう思う」「ややそう思う」と答えた生徒は合わせて67%で</p>	B		<p>・給食委員会で残食調査を実施し、残食を減らすことに効果的だったため、来年度以降にも引継ぎたい。 ・給食を残さず食べている生徒が少ない原因として給食アンケートの結果か</p>

		あり、評価指標の75%には届かなかった。		どのある生徒も昔よりも増えているように思う。	ら「時間が足りない」という回答が4人に1人の割合であるため、来年度以降にいか対策を考えたい。
12【安全教育】					
①加害者にも被害者にもならないように交通ルールやマナーの徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による校外安全指導を月1回実施するとともに、校門付近での登下校指導を毎日実施する。 登下校時の状況について、学級活動や集会等で繰り返し啓発する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「通学時にヘルメットを必ず着用している」生徒：100% 「交通ルールやマナーを守って登下校している」生徒：100% 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の校外安全指導や、各学級での安全指導を通して、「通学時にヘルメットを必ず着用している」と答えた生徒は98%と、昨年度より増加した。 交通ルールやマナーを守って登下校していると回答した生徒は99%と昨年度より増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校のマナーはよいと思う。学校を通ってヘルメットを着用している。狭い道も一列で通っている。 3学期の避難訓練は生徒も意識が高かったようにので、志向を変え継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、「交通ルールやマナーを守っている」と答えた家庭は62%と、生徒アンケートとの差がみられた。この結果から、生徒の「できている」という認識には甘さがあるかと推測できる。次年度以降、より具体的な指導を通して、マナーアップに努めていかなくてはならない。 登下校も含めた学校生活のあらゆる場面を想定し、訓練や指導を行い、生徒の安心安全につなげていく。
②自然災害等、緊急避難時に安全で適切な行動がとれるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な状況を想定して、複数回、避難訓練を実施する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「緊急事態時の避難方法を知っている」生徒：100% 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に実施した抜き打ちの避難訓練で、全校生徒が自ら運動場に避難できた。 「緊急事態時の避難方法を知っている」生徒が96%と昨年度より、0.3%低下した。 	A		
13【環境教育】					
①将来にわたり、限られた資源を大切に育てる意識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 節電や節水を意識できるよう、グラフを掲示するなどして広報する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 電気代や水道代を昨年度より削減する。 「節電・節水・ゴミの分別を意識している」生徒：85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 専門委員会において何度か月目標として取り上げ、全校生徒に呼びかけを行った。また、ポスター等で可視的に呼びかけを行った。 電気・水道使用量ともに昨年度よりわずかであるが増えている。 83%の生徒が節電・節水・ゴミの分別を意識していると回答した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気料金や水道代金等のデータを保存しておき、専門委員会を通して伝達したり、グラフを掲示するなどして全校生徒に知らせる。 節電・節水・ゴミの分別について、全校生徒へ今一度呼びかけを行う。美しい環境が落ち着いた学習環境につながることに。
②紙の再資源化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 教室等での資源ごみ回収を呼びかけ、一人一人の意識を高める。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「ごみの減量や紙の再資源化に積極的に取り組んでいる」教職員：80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員相互の声かけにより資源ごみの分別ができています。 89%の教職員がごみの減量や紙の再資源化に積極的に取り組んでいると回答した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 職員相互の呼びかけや声かけをさらに増やし、資源ごみの分別を徹底する。 個人情報保護の観点から分別時に配慮することも必要である。
③生徒会活動や清掃活動を推進し、美しい学校環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動時間の充実を図るとともに、ボランティア活動を推奨する。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「清掃活動に進んで取り組んだ」生徒：85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> KCLG活動などに積極的に取り組み、校舎内外の美化に取り組めた。 77%の生徒が清掃活動に進んで取り組んだと回答した。生徒の割合は当初目標を下回っている。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 掃除の時間の指導を改善する必要がある。生徒と共に清掃活動に取り組んだり、声かけをしたりしていく。気持ちのよい環境が落ち着いた学校生活にもつながることを伝えたい。

				ていく。	
1 4 【情報教育】					
①情報モラルを守って、適切に通信機器を活用することができる生徒の割合を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話安全教室等の講習を行う。 ・学級活動等で情報モラルについて考える授業を行う。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・「情報モラルを守り、通信機器を適切に活用できている」生徒：85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルを守り、通信機器を適切に活用できているに対して、そう思うと回答した生徒が38%、ややそう思うと解答した生徒が50%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホやSNSの使用については、保護者の方の協力を得て、情報モラルの育成に努め、学校と家庭の両方でルールやマナーの確認が必要であると感じた。
②タブレット端末を活用し、自分の考えを深めることができる生徒の割合を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、授業でタブレット端末を活用し、他の意見を聞いたり、考えを深めたりする機会を増やしていく。 【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・「タブレット端末を活用し、考えを深めることができた」生徒：80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、考えを深めることができたに対して、そう思うと回答した生徒が26%、ややそう思うと解答した生徒が38%であった。 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を実施して、タブレット端末を使った授業の実践例を紹介するなど多くの教員が適切に活用できるように努めていきたい。

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった